



Racing Specialities

保存版

PB-SNC²

X-SNC

ご使用の前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用いただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万が一、本書を紛失された場合は、弊社「品質管理部 製品相談窓口」までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

※ヘルメットの法的基準は各国によって異なります。ヘルメットを着用する国の法的基準を満たしていないヘルメットは使用しないでください。

ご使用にあたって

このたびはアライヘルメットをお選びいただき、誠にありがとうございます。

私たちは、日本で最も長い歴史を持つヘルメットメーカーとして、その伝統と責任を胸に、妥協のない製品づくりを続けています。しかし、どれほど厳格な基準のもとで製造されたヘルメットであっても、万が一の際に頭部への衝撃を軽減するための装備であり、頭部保護のための一つの要素に過ぎないことをご理解ください。

ご使用に際しては、次の注意事項を十分にお読みいただき、内容をご理解のうえ、常に安全運転を心がけていただきますようお願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず適切なサイズをお選びください

安全にご使用いただくためには、「ご自身の頭の形や大きさに適したサイズのヘルメットを正しく着用すること」が非常に重要です。ヘルメットがきつすぎる場合や、逆にゆるすぎる場合など、サイズが適切でない状態では衝撃を受けた際に本来の性能を十分に発揮することができません。下記のポイントを参考にヘルメットをお選びください。



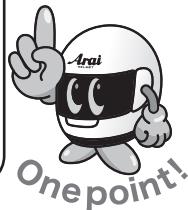
●ヘルメットは同じサイズ表記であっても、オープンフェースタイプとフルフェースタイプとでは、かぶった際のフィット感が異なります。必ず試着を行ってください。

●ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してしっかりと追従することが重要です。

●近年は内装ウレタンの性能向上により、使用によって大幅にゆるくなることはほとんどありません。

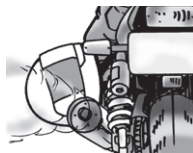
そのため、着用時に内装が頭部全体へ均一にフィットし、特定の部位に圧迫感がないサイズをお選びください。

無理なく自然にフィットするサイズが、安全性と快適性の確保につながります。



▼ヘルメットの持ち運びにご注意ください

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げたり、ヘルメット本体や車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけたりするおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げたりして、走行することもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼あご紐のコンディションにご注意ください

あご紐は安全の要です。あご髭と長時間接触したり、路面などの硬いものと擦れたり、ライディングジャケットなどの襟部分の面ファスナーなどに触れると、繊維が徐々に摩耗してあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれが生じた場合は、穴あけなどの改造や転倒による痕跡がなければ、弊社「品質管理部 製品相談窓口」にてお預かりによる交換修理を承ることが可能です（修理対象モデルに限ります）。弊社ホームページ〈修理受付フォーム〉より、ご確認いただきお申込みください。

※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。

▼あご紐は緩みのないよう適切に締めてください

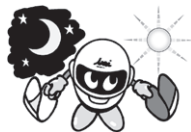
転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ヘルメットが脱げる方向からの衝撃や、大きな衝撃が来た際にヘルメットの保護性能を最大限発揮できるよう、ヘルメットをしっかりと頭に固定することがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を緩みのないよう適切に締めていなければ、本来の保護性能を十分に発揮できません。必ず適切に締めてご使用ください。※詳細は、あご紐の締め方（14～15ページ）をご覧ください。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行して変形するおそれがあります。変形したあご紐では装着時の締めつけが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり危険です。

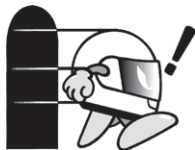
▼走行条件に合ったシールドをお選びください ※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなった状態でスモークシールドを装着して走行すると、視界が悪化し状況判断しにくくなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、アライヘルメット純正クリアーシールドもしくは、ライトスモークシールドに交換してください。なお、取り外したシールドは傷をつけないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化にご注意ください ※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行中のヘルメット内部の温度は比較的安定していますが、峠道など高低差のある場所や、突然の降雨の際、またはトンネルへの進入および退出の際には、ヘルメット内部と周囲環境との急激な温度変化により、シールドの内側または外側に結露が発生し、急激に曇る場合があります。このような状況が予想される際には、あらかじめシールドを微開にして内外の温度差を抑えとともに、安全を確保できる走行速度に調整するなど、十分にご注意ください。



▼ヘルメットを塗装する際の注意

ヘルメットを塗装する際は以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を台所用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。なお、ヘルメット内の衝撃吸収ライナー（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性能が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ穴なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。ただし、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料は使用しないでください。なお、ホルダーやダクトなどの樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの高温乾燥はお控えください

ヘルメットを 50℃以上の熱にさらすと素材に変形や変質が生じ、保護性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、ならびに取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー・トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機を使用して内装を乾燥させる場合も、乾燥温度が 50℃以上に達する場合は使用をお控えください。



▼ヘルメットの改造や、部品を取り外したままでの使用は絶対に行わないでください

ヘルメットは、頭部を物質と空間で覆うことにより保護する構造となっています。安全性を高めるためにはより多くの物質や空間が必要となるため、ヘルメットを着用していない状態と比べて、視界・聴力・運動性が一部制限される場合があります。しかしながら、ヘルメットのシェルに聴音用の穴をあけたり、必要な内装パーツやシールドを取り外した状態で走行すると、衝撃吸収性能が低下するおそれがあります。さらに、風切音が増加し、周囲の音が聞こえにくくなる原因にもなります。



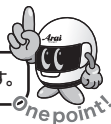
本書および各パーツの取扱説明書に記載されていない使用方法や、メーカーに相談することなくヘルメットや発泡スチロール部に穴をあけたり、削ったりする行為はおやめください。

▼一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは再使用しないでください

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を護るようにつくられています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、たとえ表面に大きな傷などが見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社「品質管理部 製品相談窓口」まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送りいただき、再使用可能かの検査をご依頼いただくか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。



ヘルメット箱や梱包材は修理時の送付に使用できるため、保管をお勧めいたします。



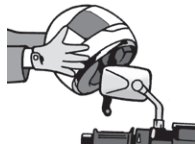
▼走行時のヘルメット操作は危険です

走行中に各パーツのシャッター開閉などの操作を行う場合、一時的にハンドルから手を離す必要があります。その結果、運転操作に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの各種操作は、緊急の場合を除き、必ず停車時に行ってください。なお、シールドやサンバイザーの開閉については、視界の確保を最優先としてください。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないでください

オートバイのミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷ついたり、衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあります。変形したライナーは衝撃吸収性能の低下につながる可能性があります。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットの縁ゴムを傷つけ、それをきっかけに縁ゴムが剥がれたり削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。ヘルメットの裾部は硬いので、それを保護している縁ゴムがないと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼ヘルメットは直射日光を避け、湿気の少ない場所に保管してください

ヘルメットに使用されている各パーツは、可動部の摩耗や紫外線による素材劣化が生じます。直射日光を避け、湿気の少ない場所で保管してください。また、本書をよく確認し、定期的なメンテナンスを行ってください。特にシールドベースおよび固定用のネジ、ホルダーやワッシャー類などは重要なパーツなので、亀裂や摩耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行ってください。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません

ヘルメットは日々の着用に伴い、構成する素材の経年劣化が進行し、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク*の有効期限である3年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて3年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。

※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないでください

オートバイのタンクやシート上など平面でないすべりやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットの内部に物を入れていない状態で高さ1m以下からの落下であれば、性能に大きく影響しません[※]、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れるおそれがあります。部品が破損した際には、速やかに新しい部品と交換してください。

※たとえ1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



▼ペットの近くにヘルメットを置かないでください

ペットの活動範囲内にヘルメットを置かないでください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲^{げっしるい}するおそれもありますので十分注意してください。齧歯類の場合は、内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り(寝床)の材料にするためにかじり取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。



▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼り付けられている検査ラベルには、最終検査を実施した日付が記載されており、この日付を当該ヘルメットの製造年月日としております。なお、ヘルメットに付属の印刷物(シールドラベルや取扱説明書など)に表示される数列などは印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。

※製造年月日「120718」の場合は、2012年7月18日となります。



▼窓ゴムや縁ゴム(縁巻き)に生じる粉吹き現象について

窓ゴムや縁ゴムに生じる白い粉状のものはブルーム(ブルーミング現象)で、空気中に含まれる酸素やオゾン・紫外線などにより、ゴムに添加された配合剤が表面に浮き出して白い粉状に結晶化したものです。この結晶化したブルームは、水やぬるま湯を含ませた柔らかい布で簡単に拭き取ることができます。機能上問題ございませんので、ヘルメットを安心してお使いください。

▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネなどのご使用について

シールドは、偏光レンズを使用したサングラスや保護メガネと併用すると、光学特性の影響により視界にムラが生じ、見えにくくなる場合があります。この特性をご理解いただき、ご使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて

ベンチレーションダクトは両面テープやネジで固定されています。バッグや、ケース類への収納時に無理に蓋を閉めたり、ダクトに指をかけてヘルメットを取り出したり、高温環境で長時間保管したりすると、ダクトの破損やズレ、剥がれの原因となりますので、おやめください。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

つや消し塗装面は、アルコールなどの溶剤や消しゴム・コンパウンドを使用せず、水またはぬるま湯を含ませた柔らかい布で軽く拭き、落ちにくい汚れは薄めた台所用中性洗剤で除去してください。また、塗料やインクなどが付着すると完全に除去できない場合がありますのでご注意ください。

▼SGマーク被害者救済制度について

SGマークは、製品安全協会が定めるSG基準に適合した製品に表示される安全・安心マークです。SGマーク付きヘルメットの欠陥により人身事故が発生したときは賠償措置が講じられます。ただし、プロオートバイレースやサーカス等の特殊な使い方をしている場合や、シールド等の付属品の欠陥による事故の場合の負傷等は、賠償の対象になりません。また、SGマークには、ヘルメットの耐久性等を考慮して、「購入後3年間」との有効期間を定めています。3年以内であっても、一度でも衝撃を受けたヘルメットや、改造されたヘルメットは外観に異常が無くても性能が低下しているおそれがありますので、使用しないでください。

SG マークに関してのお問い合わせ

一般財団法人製品安全協会

〒110-0012 東京都台東区竜泉 2-20-2 ミラホーム3ノ輪 2 階

SG マーク付き製品による事故申出フォーム：<https://www.sg-mark.org/trouble>

シールドカラーの選び方



晴天

晴れの日には、陽射しや路面の照り返しの眩しさを軽減する**スモークシールド**がおすすめです。なお、夜間や視界が十分に確保できない状況では使用しないでください。



曇り・雨

曇りや雨の日には、**クリアシールド**がおすすめです。

※アルコール成分やシンナーを含む、溶剤や撥水剤（車窓用など）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

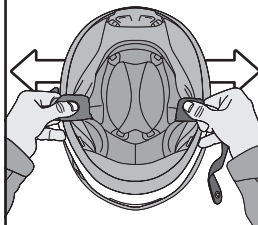
夕方や夜には、**クリアシールド**をおすすめします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所まで停車して交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーには**ライトスモークシールド・セミスモークシールド**がおすすめです。

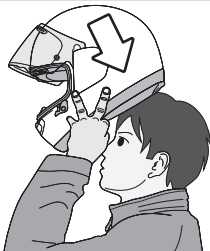
ヘルメットのかぶり方



あご紐をしっかり持って、ヘルメットの左右を広げます。

また、事前にシールドを開けておくと、かぶり終えた際のヘルメットの位置調整が容易になります。

※FCS内装は頬パッドが下まで回りこんでいるため、間口が狭くなっています。



ヘルメットの間口を広げた状態を保ちながら頭上に持ち上げて、頭をすべらせるようにしてかぶります。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を調整します。

最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ (台所用中性洗剤を推奨)

ホルダーやベンチレーションダクトなどのパーツ類は、台所用中性洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れの際に、アルコールやシンナーを含むクリーナー類、溶剤、またはガソリンなどを使用すると、塗装面や素材を侵すおそれがありますので、使用しないでください。



シールドのお手入れ (台所用中性洗剤を推奨)

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは薄めた台所用中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分にすすいでから柔らかい布で水分を拭き取ってください。



シールド素材は耐衝撃性に優れていますが、アルコールやシンナーを含むクリーナー類、溶剤、またはガソリンなどを使用すると、素材を侵すおそれがあります。その結果、シールドにヒビ割れが発生し、万が一の衝撃の際に破損する可能性があります。これらの物質が付着した場合は、直ちに拭き取るなどの適切な対処を行ってください。



シールドに虫などの汚れが付着し取り除きにくい場合は、シールドを水に浸して汚れを柔らかくした後、薄めた台所用中性洗剤を含ませた柔らかい布でやさしく拭き取ってください。なお、薄めた台所用中性洗剤の液にシールドを長時間浸け置きすることは、素材を傷めるおそれがありますので、おやめください。



ヘルメットのお手入れ (洗濯用中性洗剤を推奨)

ヘルメットを丸洗いする際は、シールドや着脱式内装を取り外してください。洗濯用中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュ部分を洗います。その後、水で十分にすすぎ、ペーパータオルなどで水分を取り除いてください。最後に日陰の風通しの良い場所で、ヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上の熱を加えたり、長時間日光にさらし続けたりすると、ヘルメット内部の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性能が失われてしまいますのでご注意ください。



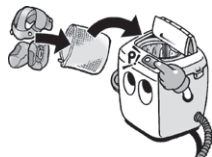
着脱式内装のお手入れ (洗濯用中性洗剤を推奨)

フルシステム内装 (システム内装、システムパッドのカバー、ストラップカバー、システムネック) は、ヘルメットから取り外し、洗濯用中性洗剤を少量溶かした水に浸して、やさしく揉み洗いしてください。

システム内装およびシステムネックを洗浄する際は、枠を折り曲げたり変形させたりしないよう、十分にご注意ください。洗浄後は、水でよくすすぎ、ペーパータオルなどで水分を取り除いたうえで、風通しの良い日陰にて自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモードを選択してください。なお、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥は、乾燥温度が 50℃以上になるおそれがあるため使用しないでください。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

内装生地について

ヘルメットの内装に採用している生地は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。なお、内装にほつれや毛羽立ちが生じて支障がある場合は、新しい内装をお買い求めください。

X-SNC の特長

フラッグシップモデルである RX-7X と同じ「SNC」構造をもち、高い剛性と軽さを実現しました。さらに、流体解析技術を駆使して開発した新型ベンチレーションは、吸排気効率を徹底的に追求しました。ストリートライディングに最適なアップライトポジションでは、RX-7X に装備される DF-12 を上回るベンチレーション効果を実現しました。

Peripherally Belted-Structural Net Composite²

PB-SNC²は、成形用樹脂を大幅に見直し、帽体全体の剛性を高めた進化した帽体です。前頭部にはスーパーファイバーベルト、サイドからリヤにかけてはスーパーファイバークロスを配置し、各部に効果的な補強を行い、積層間剥離を抑える「ネット」を用いた 6 層構造 (SNC) を基盤に、新配合素材を採用することで、ストリートモデルに求められる強度・軽量性・耐久性を高次元で両立しています。

マウスシャッター

フリーフローシステムモードとデフロストモードの 2 つの空気の流路を併せ持つマウスシャッターを採用しています。

ACダクト

走行風を効率的にヘルメット内部へ導くことで、快適なベンチレーション性能を実現します。

SDダクト

走行時の空気の流れを最適化し、ACダクトから取り込んだ空気を効率よくヘルメット内部へ循環・排出することで、高い換気性能を実現します。

VAS-Vロック

VAS-Vシールドシステムは、四輪用ヘルメットで採用された強力なシールドロックレバーを搭載しております。VAS-Vロックによってシールドを確実にロックし、外圧や衝撃によるシールドの不意な開放を可能な限り防ぎます。

ブローベンチレーション・エアロフラップ (固定式)

ブローシャッターから導入した外気を、ヘルメット内部へ効率的に送り込みます。エアロフラップ (固定式) は、ヘルメットの下部からの風の巻き込みを軽減し、高い整流効果を発揮します。また、フリーフローシステムの効果を高めます。

EP (エコピュアー) フルシステム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現しました。

FCS (フェイシャルコンタースystem) システムパッド

FCSを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってあご下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

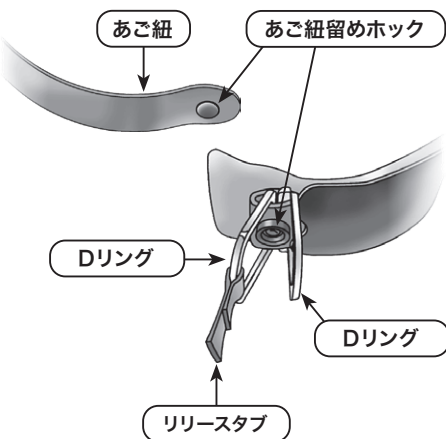


目次		ページ
ご使用にあたって		2 ~ 13
A	あご紐の締め方	14 ~ 15
B	VAS-V ロックについて	16
C	シールドの開閉	17
D	ブローシャッターの操作	18
E	マウスシャッターの操作	18
F	AC ダクトの操作	19
G	SD ダクトについて	19
H	ディフレクターの着脱	20
VAS-V シールドシステム 各部名称		21
I	シールドの着脱	22 ~ 25
J	シールドベースの着脱	26 ~ 27
K	システムパッドの着脱	28 ~ 29
L	エマージェンシータブについて	30 ~ 31
M	パッドカバーの着脱	32 ~ 33
N	イヤークケットスペーサーについて	34
O	システム内装の着脱	35
P	ヘルメットのサイズ調節	36 ~ 37
Q	システムネックの着脱	38 ~ 39
R	ストラップカバーの着脱	40 ~ 41
S	オプションパーツリスト	42 ~ 43
T	ヘルメットの廃棄方法について	43

A あご紐の締め方

あご紐を適切に締めていない場合、万が一の際に保護性能を十分に発揮できません。本ページをよくお読みになり、あご紐は緩みのないよう適切に締めることを心がけてください。

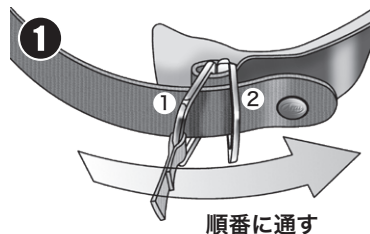
あご紐の各部名称



① 2つのDリングに通す

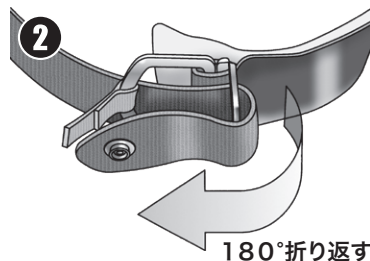
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないように注意してください。



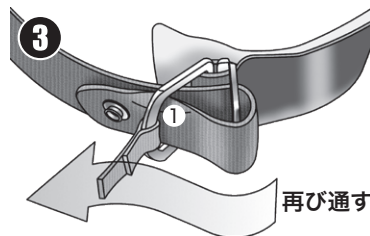
② あご紐を180°折り返す

2つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っばって緩みを取り除きながら180°折り返します。

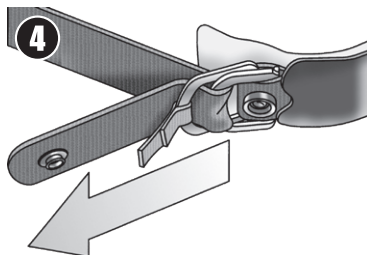


③ Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



あご紐を緩みのないよう適切に締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

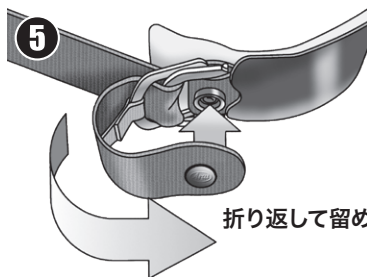


④あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご紐の適切な締め具合について

あご下とあご紐の間に指が1、2本入る程度が、適切な締め具合です。



折り返して留める

⑤余った先端部を留める

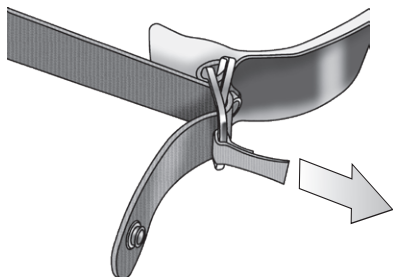
余ったあご紐の先端を、あご紐留めホックで留めることで、風によるあご紐のバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

あご紐がライディングジャケットやレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると、後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



あご紐の緩め方

あご紐留めホックを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。



あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損してしまう場合があります。

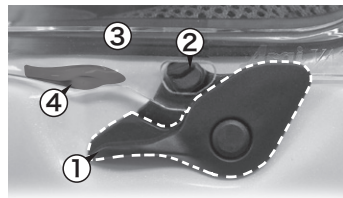


B VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドシステムは、四輪用ヘルメットで採用された、強固なシールドロックレバーを搭載しております。VAS-Vロックによってシールドを確実にロックし、外圧や衝撃によるシールドの不意な開放を可能な限り防ぎます。

VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー (点線部)
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ

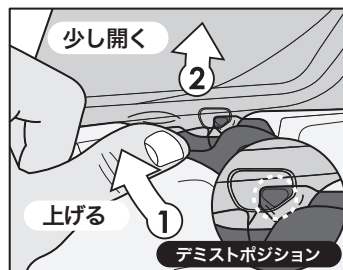


シールドをロック状態からデミストポジションへ

Vロックレバー前方を親指の腹で押し上げると、シールドのロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。この状態を【デミストポジション】と呼称し、隙間から入り込む外気でシールドの曇りを軽減します。

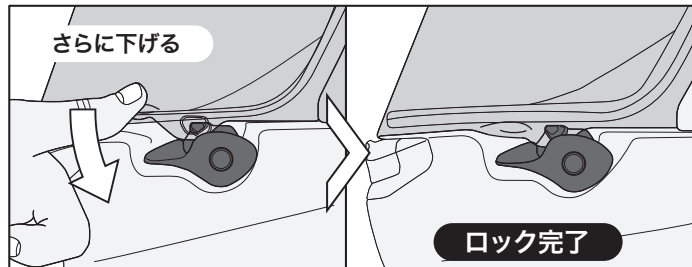


ココを押し上げる



シールドをデミストポジションからロック状態へ

シールドの指かけの上に指をかけてデミストポジションからさらにシールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



C シールドの開閉

シールドの開き方（シールドのロックを解除）

Vロックレバーの前方を親指で押し上げるとシールドのロックが解除され、シールドが少し開きます。次に、シールドの指かけの下に指を移し、シールドを上げます。

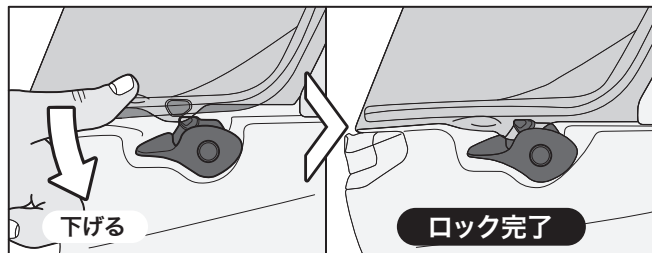


ココを押し上げる



シールドの閉じ方（シールドのロック方法）

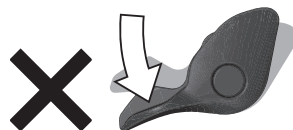
シールドを閉じる際は、シールドの指かけの上に指をかけてシールドを下げ、確実にロックさせてください。



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

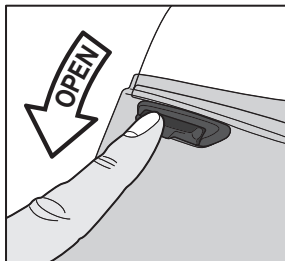


Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。

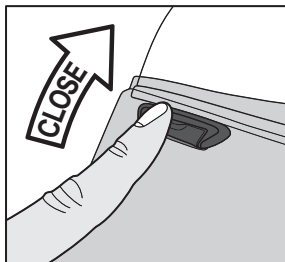


D ブローシャッターの操作

シャッター中央の指かけを引き下げると、シャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。



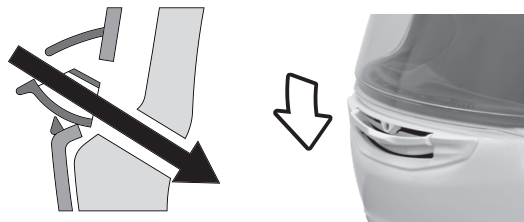
シャッター中央の指かけを押し上げるとシャッターが閉じ、外気の流入が止まります。



E マウスシャッターの操作

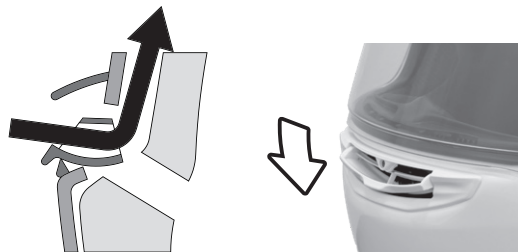
シャッター半開〈フリーフローシステムモード〉

シャッター上部中央に指をかけ、1段引き下げると【半開】となり、流れ込んだ外気は口元へ導かれ、システムパッドのポート部を通して排出されます。



シャッター全開〈デフロストモード〉

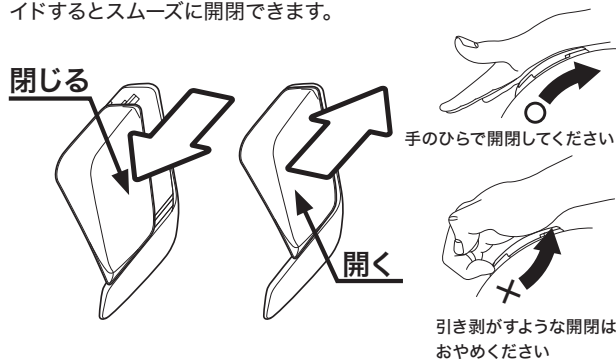
シャッターをもう1段引き下げると【全開】となり、流れ込む外気がシールド内面に導かれてシールドの曇りを軽減します。



F ACダクトの操作

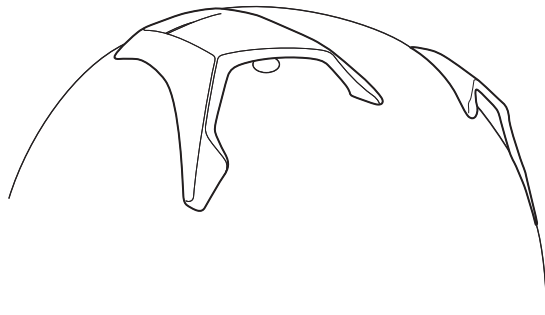
ACダクトは、走行風を効率的にヘルメット内部へ導くことで、快適なベンチレーション性能を実現します。

ダクト表面をヘルメット前方へスライドするとシャッター（ダクト穴）が閉じ、後方へスライドするとシャッター（ダクト穴）が開き、外気を導入します。状況に応じて空気の流入量をコントロールできます。開閉させる際は、手のひらで押すようにスライドするとスムーズに開閉できます。



G SDダクトについて

SDダクトは、走行時の空気の流れを最適化し、ACダクトから取り込んだ空気を効率よくヘルメット外部へ排出することで、高い換気性能を実現します。内部にこもりがちな熱気や湿気の排出を促進し、長時間のライディングにおいても快適性の維持に貢献します。



雨天時は、ダクト類のシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。なお、シャッターを閉じていても水や空気を完全には遮断できませんので、あらかじめご了承ください。



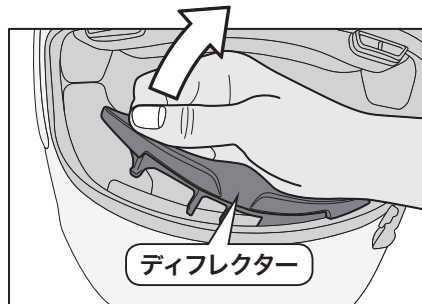
ACダクトを無理に引き剥がすような開閉操作や、一点に強い力が加わるような操作は行わないでください。また、各ダクトを持ってヘルメットを持ち運ぶと、破損の原因となるおそれがありますのでおやめください。

H ディフレクターの着脱

ディフレクターは、走行時の砂埃や泥、小石などの侵入を防ぐとともに、寒暖差による結露や呼気によるシールドの曇りを軽減します。必要に応じて、簡単に着脱できます。

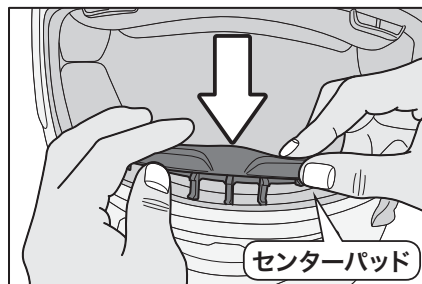
ディフレクターの取り外し

ディフレクターの端をしっかりと掴んで引き上げると、ディフレクターを外すことができます。



ディフレクターの取り付け

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッド（口元のパッド）との隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。

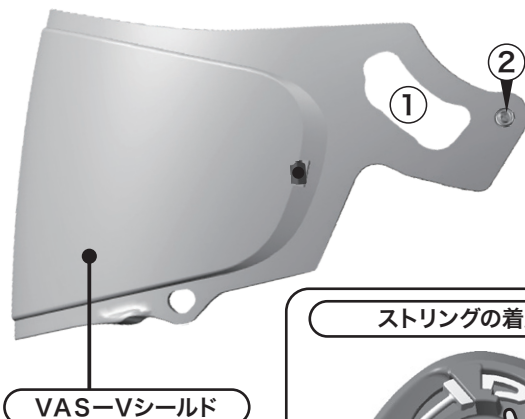


ディフレクターは快適性の向上を目的としていますが、すべての使用環境において効果を保証するものではありません。



VAS-Vシールドシステム 各部名称

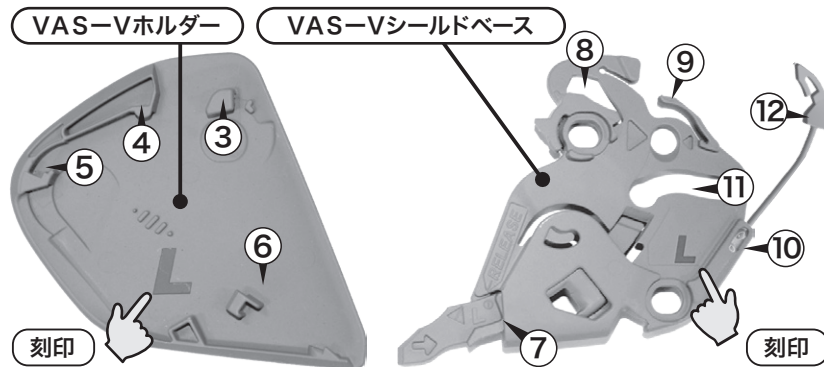
VAS-Vシールド	1	シールドレール
	2	シールドピン
VAS-Vホルダー (L・左側)	3	上部フック (前)
	4	上部フック (後)
	5	ストリング用マウント
	6	下部フック
VAS-V シールドベース (L・左側)	7	VAS-Vリリースレバー
	8	上部フック受け (前)
	9	上部フック受け (後)
	10	ストリング用マウント
	11	ガイドレール
	12	ストリング



ストリングの着脱



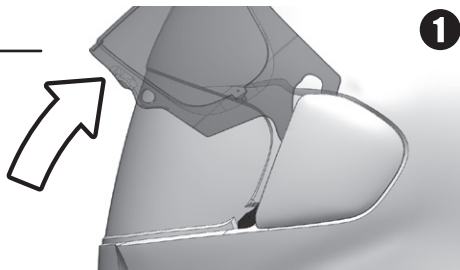
ストリングによりホルダーとシールドベースを連結し、シールド着脱時におけるホルダーの落下や破損を防止します。ストリングはフック式でホルダーの着脱が可能ですが、シールドベースを取り外さない限りストリングを取り外すことはできません。



Ⅰ シールドの着脱

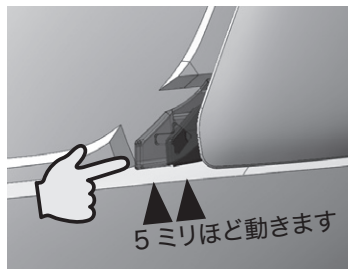
シールドの取り外し

①シールドを上げて全開にします。※図ではロックレバーが省略されています。

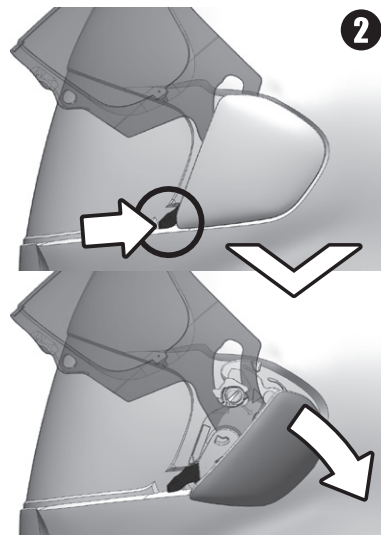


②ホルダーの下方面に見える【VAS-Vリリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。すると、ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。

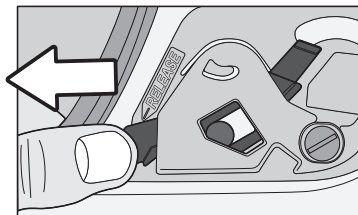
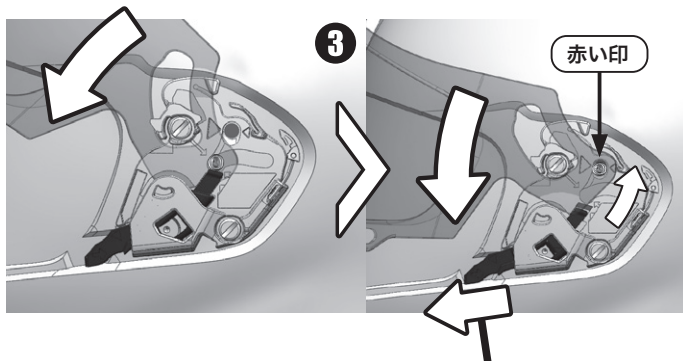


ホルダーとシールドベースは、落下防止用のストリングで繋がっています。



③ VAS-Vリリースレバーが押し込まれた状態でシールドを下げると、シールドは通常の開閉とは異なる動きをします。シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレールから離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VAS-Vリリースレバーは元の位置に戻ります。

※図ではストリングで繋がったホルダーは省略しています。



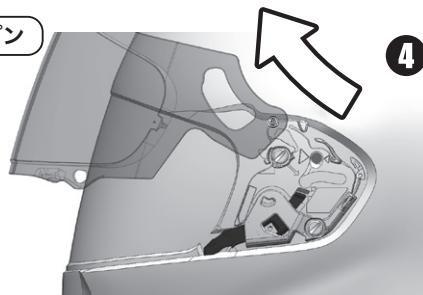
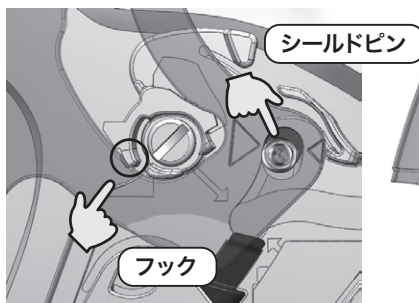
VAS-Vリリースレバーが戻っていない場合は、先端部を指で押さえて引き出してください。



VAS-Vリリースレバーが戻る

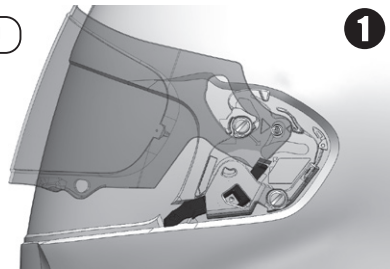
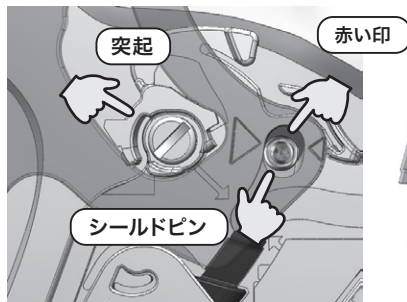
④ この際、シールドはシールドベース側に1か所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくことでシールドベースから簡単に取り外すことができます。

反対側も同様の手順で取り外しを行いますが、既に取り外しを行った側のシールドピンがヘルメットに接触して傷をつけないように注意してください。



シールドの取り付け

① シールドベースに設けられた突起にシールドレールの下側を合わせます。そして、シールドピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。



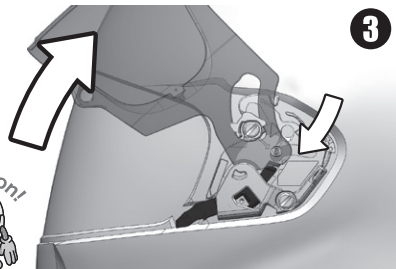
② フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込ませます。



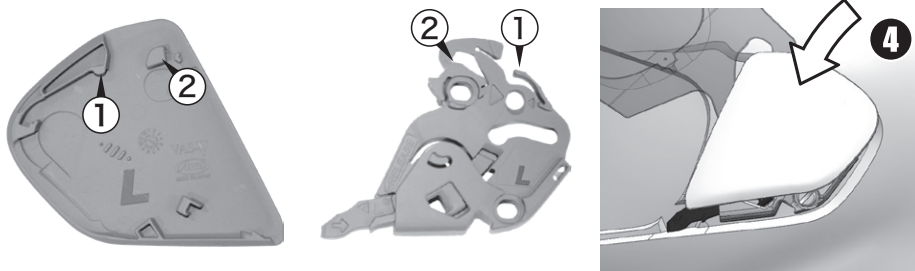
③ シールドを上げると、シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレールに入り込みます。

※図ではストリングで繋がったホルダーは省略しています。

左図の指で示した部分がシールドの上に重なっていることを確認してください。

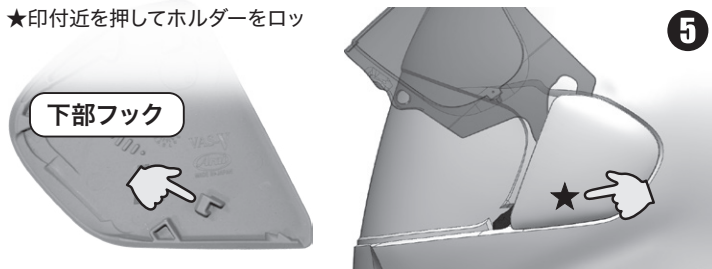


④ホルダーの上部 2 か所のフックを、シールドベースの上部の窪みに引っかけます。

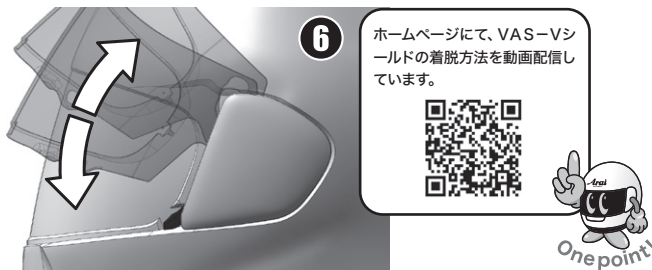


⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、★印付近を押してホルダーをロックさせます。

★部分の裏側には下部フックが設けられています。



⑥反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。
最後にシールドを数回開閉させ、正しく取り付けられていることを確認してください。



シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行ってから、ヘルメットをご使用ください。



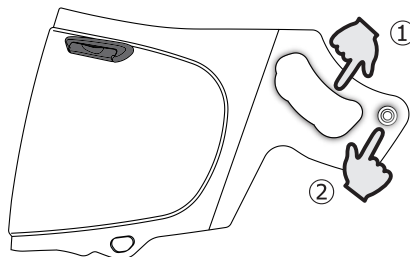
ホームページにて、VAS-Vシールドの着脱方法を動画配信しています。



シールドの動きが渋くスムーズでない場合は

一旦シールドを取り外し、市販の綿棒などに付属の潤滑シリコンを少量含ませてシールドレール周辺①と内側に突き出たシールドピンの軸周り②に塗布します。その後、シールドをヘルメットに取り付けて数回開閉し、潤滑シリコンを十分に馴染ませてください。

新品のシールドを取り付ける際にも、潤滑シリコンを塗布してください。



潤滑シリコン

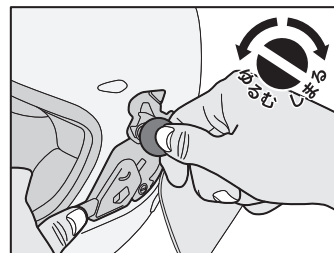
J シールドベースの着脱

シールドベースの取り外し

シールドベースの2本のネジを、10円硬貨などで左に回して取り外します。

シールドベースの取り付け

シールドベースの左右を刻印で確認し、ネジは始めに手で右に回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してから10円硬貨などで軽く回し、止まった位置から90°ほど右に回転させ、締めた状態が目安です。ネジの締め忘れや締めすぎには十分注意してください。



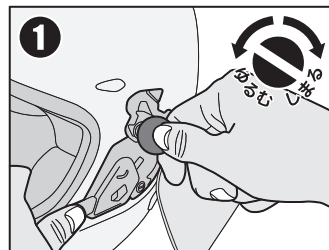
シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替える際は、ヘルメットへのシールドのアタリ（密着具合）がきつく、またはゆるくなってしまう場合があります。その際は次のページの、「シールドベース調整によるフィッティングの最適化」をご参照ください。



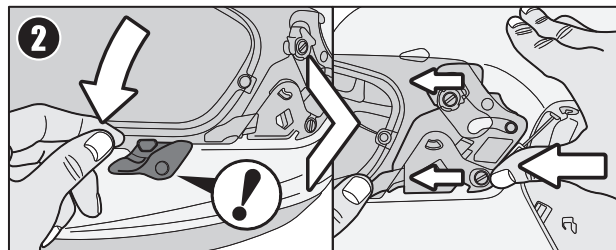
シールドベース調整によるフィッティングの最適化

①VAS-Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。動かしたVAS-Vリリースレバーを元の位置に戻すため、シールドを一旦シールドベースから外し、再度取り付けてください。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って4本のネジを少しだけ緩めます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。



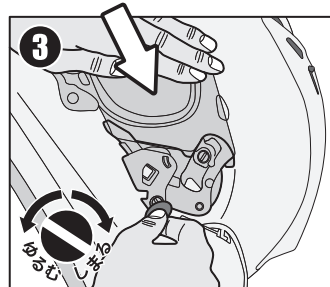
②シールドを下げ、ロックさせた状態にします。次に、シールドベースがシールドに接するように位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方向に押しってください。



③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。同様の作業を左右ともに行ってください。

次に、シールドを開いて左右のホルダーの取り付けを行ってください。

最後に、シールドを数回開閉させて、正しく取り付けられていることを確認してください。

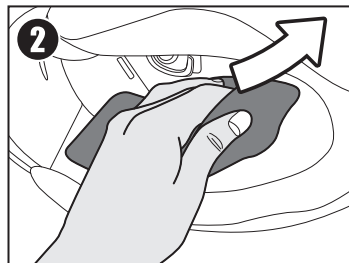
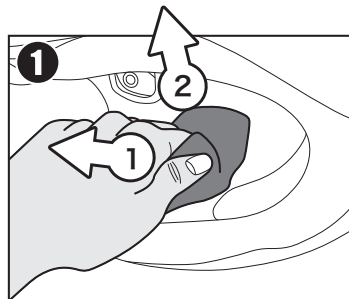


K システムパッドの着脱

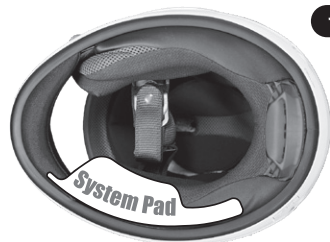
システムパッドの取り外し

①システムパッドを掴み、センターパッド側に押し付けてライナーの凹部への引っかかりを解除します。（下図Aを参照）そして、システムパッド後方を持ち上げます。（下図Bを参照）

②システムパッド後方が外れたら、斜め後ろ方向に抜き取ります。（下図Cを参照）

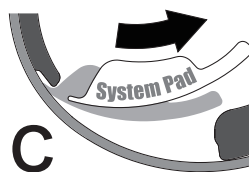
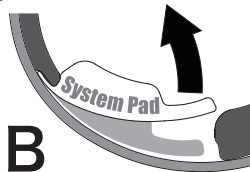
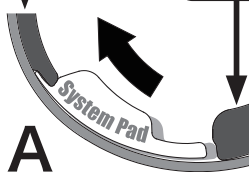


本製品のシステムパッドは、必ず後方を持ち上げて外してください。前方を無理に持ち上げると破損の原因となります。



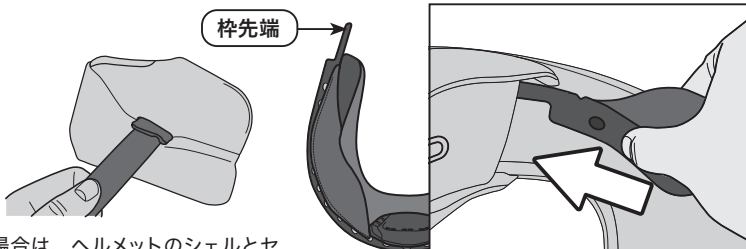
センターパッド

ライナー



システムパッドの取り付け

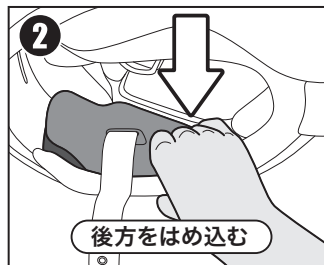
あらかじめ、システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、あご紐をシステムパッドの中央の穴に通しておきます。



システムネックの杓先端が外れて飛び出している場合は、ヘルメットのシェルとセンターパッドの隙間に差し込みます。杓先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷つけるおそれがありますので、ご注意ください。

①システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。

②センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥まで差し込み、システムパッドの後方をヘルメット側へ押し付けてはめ込みます。



システムパッド中央の穴にあご紐を通さずにシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用することも大変危険です。

L エマージェンシータブについて

ライダーが何らかの衝撃で負傷し、救護者がライダーのヘルメットを脱帽させる際に、システムパッドを引き抜くことで、スムーズな脱帽をサポートすることを目的とした機能です。

救護者は、ポイントステッカーや、システムパッドのポイントラベルで傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応していることを識別できます。※ポイントステッカーをヘルメットから剥がさないでください。

EMERGENCY
PERSONNEL
ONLY

引き抜く前に行うこと

救護者はライダーの頭部および頸椎保護のため、ヘルメットをしっかりと保持してあご紐をあらかじめ外しておきます。なお、あご紐を外せない場合は、あご紐を切断します。



①ポイントラベルを確認

傷病者のヘルメットを観察し、ヘルメットに設けられたエマージェンシータブの目印（ポイントラベル）を確認します。



②エマージェンシータブのポイントラベルを摘んで引き出す

ポイントラベルを指で摘んで、格納されているループ状の紐を引き出します。

③ラベルに指をかけ、システムパッドを引き抜く

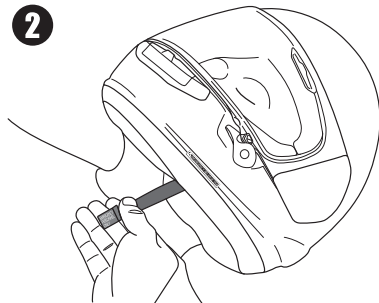
負傷者の頭部が動かないようにヘルメットをしっかりと支え、ループ状になった部分に指をかけます。

ヘルメットに対して垂直方向に力をかけ、システムパッドのツメ部分まで外れたら、少し後ろ方向に引き抜くようにして、システムパッド本体を取り外します。(※図を参照)

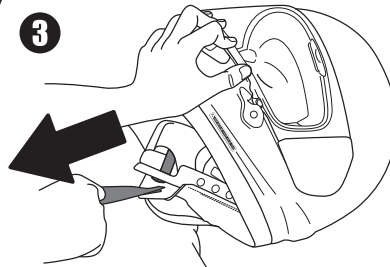
※



2



3



緊急時にスムーズな脱帽を行うための機能であり、引き抜いた際にパーツが破損する場合があります。破損が確認されたパーツは使用しないでください。また、走行時や通常のメンテナンスでは、エマージェンシータブを使ってシステムパッドを引き抜かないでください。
なお、事故状況やライダーの状態によっては、エマージェンシータブが有効な手段とならない可能性があります。

M パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

①システムパッド後方からパッドカバーを外します。そして、パッドカバー全体をパッド本体から外します。

②システムパッド裏面から、中央の穴に装着されているストッパー（長方形のカラー）を持ってカバーを引き出します。パッドカバーを引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。

取り外したパッドカバーは洗濯機で洗うことができます。（必ず洗濯ネットを使用してください）
パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。

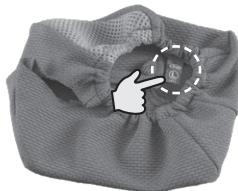


パッドカバーとパッド本体の左右の確認方法

パッドカバーとパッド本体には、左 (Left) 右 (Right) が、縫い付けラベルや布製シールによって表示されています。



パッド本体表示



パッドカバー表示



1



2



パッドカバーの取り付け

①ラベルやシールによってパッド本体とパッドカバーの左右が確認できたら、パッド本体の中央の穴にストッパーを縦向きに通した後、横向きに直してパッド本体裏面の窪みに収めます。この際、パッドカバーがねじれてパッド本体の中心の穴を塞がないようにご注意ください。

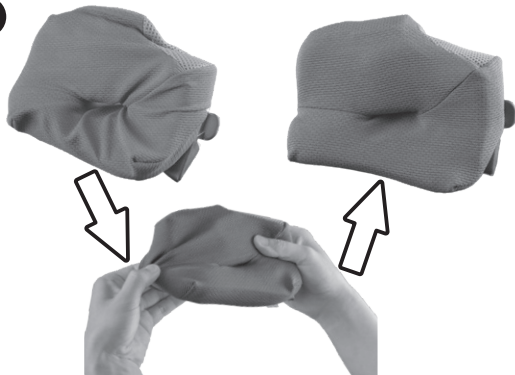
必ず左右の表示ラベルをベアにしましょう。



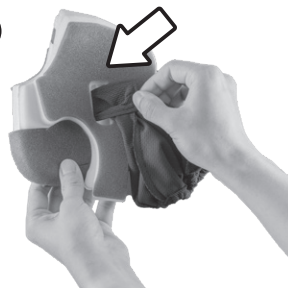
②システムパッドのツメがついている方を上向きにし、パッドカバーの穴が空いている箇所に、システムパッドのツメとエマージェンシータブの箇所を潜らせ、カバーをかぶせていきます。

③パッドカバーをかぶせた直後は、ウレタンの角がパッドカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、システムパッドを軽く揉むようにして、パッドカバーをひっぱり、ウレタンの角を出します。

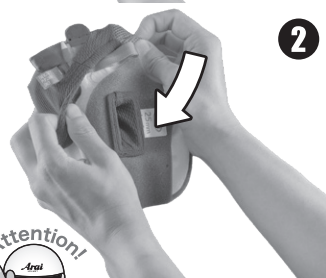
③



①



②



エマージェンシータブがパッドカバーから飛び出している、あるいはパッドカバー内に隠れてしまっている場合は、左の写真を参考に位置の調節を行ってください。

N イヤーポケットスペーサーについて

本製品には、システムパッド内部に着脱可能なイヤーポケットスペーサーを設けており、取り外すことで耳周辺の空間を確保できます。

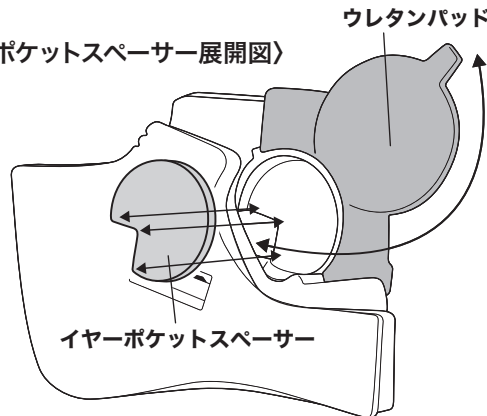
イヤーポケットスペーサーの取り外し

- ①システムパッド本体から、パッドカバーを外します。
- ②ウレタンパッドをめくります。
- ③イヤーポケットスペーサーをシステムパッド本体から抜き取ります。

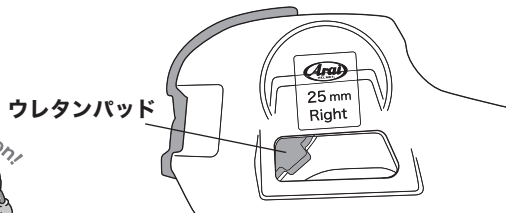
イヤーポケットスペーサーの取り付け

- ①システムパッド本体の窪みとイヤーポケットスペーサーの窪みが合うようにはめ込みます。その際、ウレタンパッドをイヤーポケットスペーサーとパッド本体の間に巻き込まないように注意してください。
- ②ウレタンパッドを、ウレタンパッド収納位置の図のようにタブ形状の部分を押し込んで収納してください。
- ③パッド本体にパッドカバーを取り付けて完了です。

〈イヤーポケットスペーサー展開図〉



〈ウレタンパッド収納位置〉



イヤーポケットスペーサーは発泡スチロール製のため、衝撃や過度な力により破損するおそれがあります。また、無くさないよう大切に保管してください。



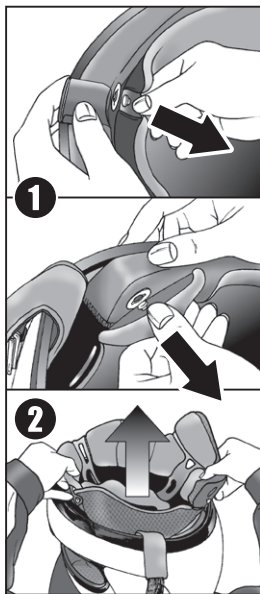
○ システム内装の着脱

システム内装の取り外し

①システム内装は4か所のホックで衝撃吸収ライナーに取り付けられています。

それぞれのホックのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心方向に引っ張り、ホックを取り外してください。

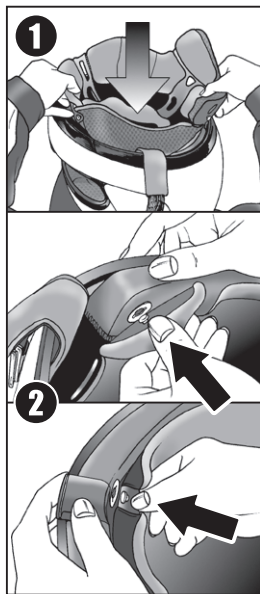
②システム内装をヘルメットから取り出します。



システム内装の取り付け

①システム内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。

②システム内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。取り付け完了後に内装のゆがみを整えてください。



破損防止のため、全てのホックを外してからシステム内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋のプロテクターやダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますので注意してください。

P ヘルメットのサイズ調節

標準設定の内装パーツではヘルメットがきつい、またはゆるく感じる場合は、厚さの異なる内装パーツに変更することで、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドには厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換する場合にはお持ちのヘルメットの標準設定をご参照の上、適切なサイズをお選びください。

システムパッド交換による頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通で、右の表のようなサイズ調節が行えます。

お持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、適切なサイズのシステムパッドをお買い求めください。

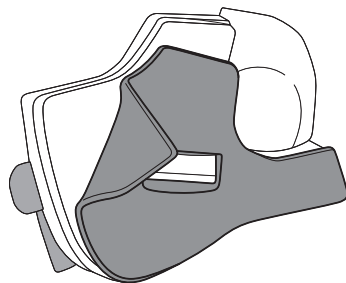
ヘルメットサイズ	システムパッド表示		
(54)XS	20 mm	25 mm	
(55-56)S/(57-58)M	15 mm	20 mm	25 mm
(59-60)L/(61-62)XL	12 mm	15 mm	20 mm
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

■システムパッドには、剥がして厚み変更ができる【調節パッド】があらかじめ取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mm程度（1パッド分）薄くでき、フィット感をゆるくすることができます。

調節パッドの取り外し（再使用不可）

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。なお、調節パッドは一度取り外すと再使用できませんので、ご注意ください。

〈システムパッド調節パッド位置〉



システム内装交換による頭周りの調節

システム内装は、右の表のような頭周りのサイズ調節が行えます。お持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、適切なサイズのシステム内装をお買い求めください。

※ (61-62)XLは、システム内装交換による頭周りの調節を行えません。

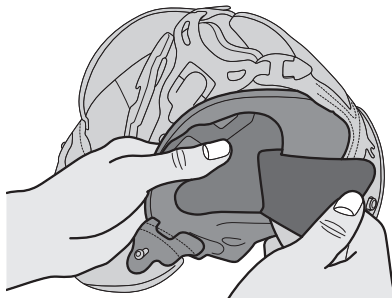
■システム内装のサイドパッド・リアパッド部分には、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】があらかじめ取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを4mm程度(1パッド分)薄くでき、フィット感をゆるくすることができます。

調節パッドの取り外し(再使用不可)

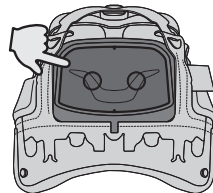
システム内装のサイドパッド・リアパッド外側のポケットをめくり、パッド本体に粘着テープで固定されている調節パッドを丁寧に取り外してください。取り外し後はポケットを閉じ、システム内装の形を整えてください。なお、調節パッドは一度取り外すと再使用できませんので、ご注意ください。

ヘルメットサイズ	システム内装表示		
(54)XS	II-7 mm	II-10 mm	
(55-56)S		II-7 mm	II-10 mm
(57-58)M	III-7 mm	III-10 mm	
(59-60)L		III-7 mm	III-10 mm
(61-62)XL		IV-7 mm	
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

〈サイド調節パッド位置〉



〈リア調節パッド位置〉



内装パーツの厚さを標準状態から極端に変更すると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なうおそれがあります。また、調節パッドを取り外す際は、本体側のパッドを傷つけたり破損させたりしないようご注意ください。なお、一度取り外した調節パッドは再使用できません。不要になった調節パッドは、お住まいの地域の軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールに従って廃棄してください。



Q システムネックの着脱

システムネックの取り外し

■あらかじめ、左右のシステムパッドを取り外しておきます。

①センターパッドの隙間に差し込まれているシステムネックの【杵先端】を、左右とも抜き取ります。

杵先端がどのようにセンターパッドに差し込まれていたか、覚えておいてください。

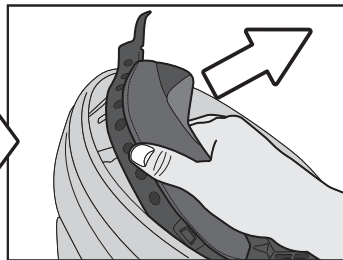
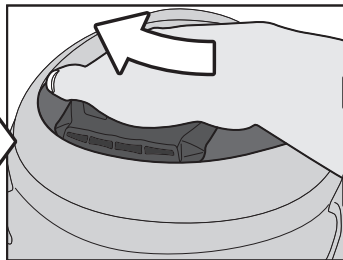
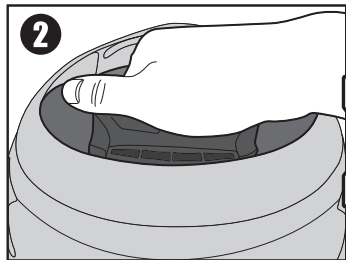


杵先端

①

センターパッド

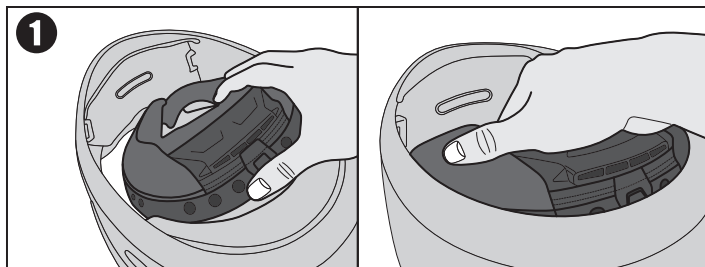
②システムネックの中央をしっかり掴んで、ヘルメットの縁ゴムに沿って左または右に3～4cm程度スライドさせると、取り付けフックが解除されてシステムネックを引き抜くことができます。



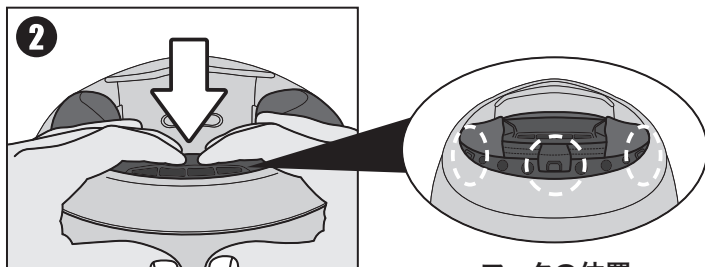
システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを杵ごとしっかり持ってください。
また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

システムネックの取り付け

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



②次にシステムネック後部の3か所のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で摘むようにして取り付けます。



フックの位置

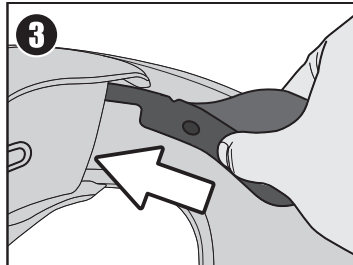
取り付け後に、システムネックを引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。



③システムネックの【枠先端】をセンターパッドの隙間に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。



枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷つけるおそれがあります。



R ストラップカバーの着脱

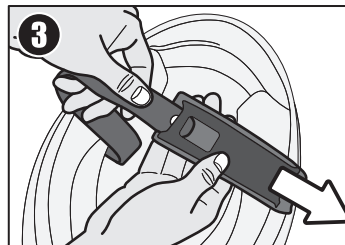
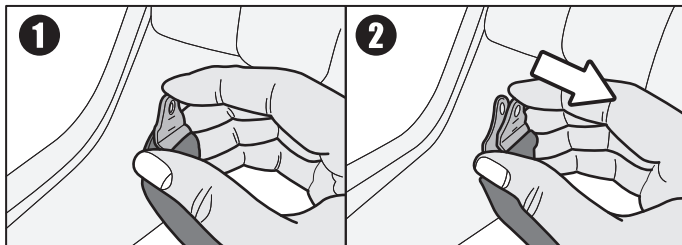
ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーを覆っている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】を確実に保持します。

②カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから引き外します。

③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側のストラップカバーも同様に取り外してください。

ストラップカバーの大きさは、ヘルメットサイズによって異なりますので、パーツリストをご参照ください。



ストラップカバーの取り付け準備

ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



左側 (Dリング): 合皮の部分が短い



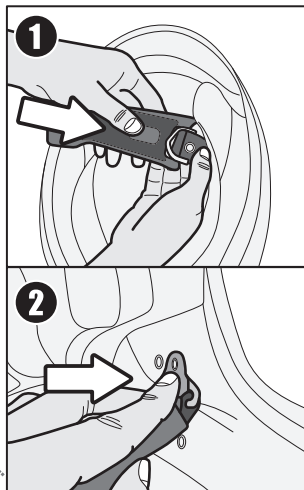
右側 (あご紐): 合皮の部分が長い

左側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏を手前に向け、Dリング側のおご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、おご紐の金属製アンカーに重ね合わせて音が鳴るまではめ込みます。

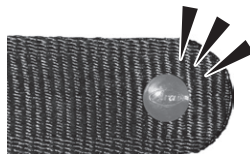


カバー裏の穴に指を入れてDリングを送り出すと、スムーズに通すことができます。

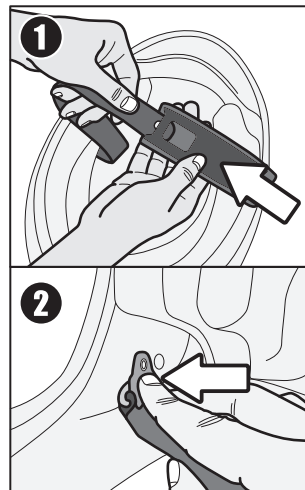


右側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏を手前に向け、長い方のおご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、おご紐の金属製アンカーに重ね合わせて音が鳴るまではめ込みます。



おご紐は、ホックの刻印側を上に向けてカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態ヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットを着脱する際にストラップカバーが外れるおそれがありますのでご注意ください。

S オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS-V MVシールド	クリアー	011057
	セミスモーク	011056
	スモーク	011058
VAS-V MVピンロックシート120XLT (クリアー)		011079
VAS-V プロシェードシステム (クリアー)		011070
VAS-V PS ノンバイザーシールド (クリアー)		011071
VAS-V PS サンバイザー (スモーク)		011073
VAS-V PS サンバイザー (ミラー)	スモーク / シルバー	011074
	スモーク / レッド	011075
	スモーク / ブルー	011076
VAS-V ダブルレンズシールド	クリアー	011063
	セミスモーク	011064
VAS-V シールドベース		021066
スーパーアドシスネジセット		112511

パーツ名		部品番号
VAS-V ホルダー	グラスホワイト	025429
	フラットブラック	025432
	プリズムブラック	025426
	フロストグレー	025427
ACダクト	グラスホワイト	102180
	フラットブラック	102181
	プリズムブラック	102182
	フロストグレー	102183
SDダクト	グラスホワイト	102210
	フラットブラック	102211
	プリズムブラック	102212
	フロストグレー	102213
	スモーク	102216
IP ディフレクター		082391

ヘルメットやパーツ類は、アライヘルメットからお客様への直接販売を行っておりません。お近くのオートバイ用品取扱店にてご注文およびご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライヘルメットの製品カタログまたはホームページをご覧ください。

パーツ名		部品 番号
XH EP システムパッド	12mm	055630
	15mm(59-60)(61-62)	055631
	20mm(55-56)(57-58)	055632
	25mm (54)	055633
XH EP システム内装	II-10mm (54)	074444
	II-7mm (55-56)	074445
	III-10mm (57-58)	074447
	III-7mm (59-60)	074448
XH EP システムネック	IV-7mm (61-62)	074451
	中 (61-62 以外)	074455
	大 (61-62)	074456
RX-7X EPストラップカバー ※1		073616
RX-7X EPストラップカバー (大) ※2		073617
ES チンカバー V		075711

※1:(54)/(55-56)サイズ用 ※2:(57-58)/(59-60)/(61-62)サイズ用

オプションパーツに関する取扱いは、必ずパーツに付属する
取扱説明書の指示に従って装着してください。



コットンへの内装生地変更について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様ののためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談を、弊社「品質管理部 製品相談窓口」にて承っております。

※コットン生地への変更は着脱式内装にのみ行われます。なおコットン内装の色は標準内装とは異なりますのであらかじめご了承ください。

T ヘルメットの廃棄方法について

弊社での、ヘルメットのお引き取りは行っておりません。お住まいの自治体の分別収集ルールに従って廃棄するか、購入した販売店へお問い合わせください。



株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12

製品に関するご質問およびご相談につきましては、
「品質管理部 製品相談窓口」までご連絡くださいますようお願いいたします。

TEL 048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

※本書に掲載しているイラストおよび画像は、実際の製品を基に作成したイメージです。

※本書の内容は、製品改良のため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

260819-u